



火災対策

火災発生! そんなときどうする

火事だ!!



初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を大声で知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければ、やかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。自分の身長に達するまでが消火できる目安。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなどの手近なものを活用する。



火元別初期消火のコツ

●油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

●石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけてと石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火を。

●衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化学繊維は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

●風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

●電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて消火を。(できればブレーカーも切る)

●カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃えひろがったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3 早く逃げる

- 火が自分の身長に達した場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。
- 一酸化炭素などの有毒ガスを含んだ煙を吸い込まないように、低い姿勢でマスク・タオル等で口をふさいで逃げる。
- いったん避難したら、再び中には戻らない。



住宅用火災警報器の設置義務化

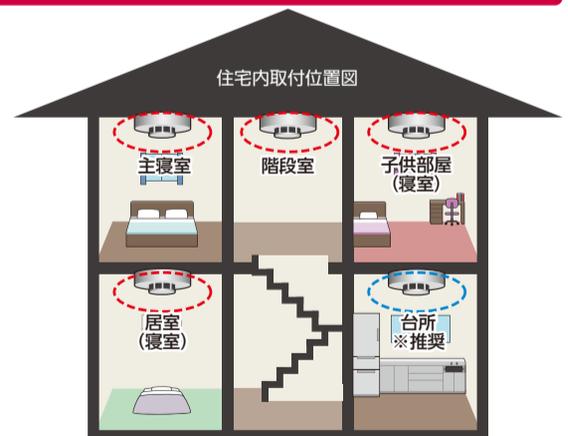
火災予防が一番!!

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。



住宅用火災警報器の設置が義務づけられている場所

- 寝室…すべての寝室(子供部屋や老人の居室など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…寝室がある階の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所…義務ではありませんが、設置を推奨します。



感震ブレーカー

感震ブレーカーとは、あらかじめ設定した震度以上の地震を感知すると、自動的に電気の供給を遮断する装置です。地震による火災の多くは電気が原因で発生しており、揺れによる電気機器の転倒・破損や、停電復旧時の通電によって火災が起こることがあります。そのため、地震発生後に避難する際は、停電中であっても必ずブレーカーを切ることが大切です。

感震ブレーカーを設置しておくことで、不在時や避難時にブレーカーを切る余裕がない場合でも、一定以上の揺れを感知した際に自動的に電気を止めることができ、電気火災の防止に大きな効果を発揮します。

